

施策番号	0205		
施策名	女性に対するあらゆる暴力の根絶		
概要	社会問題化している配偶者等からの暴力（DV）の根絶に向けた啓発や自立支援とともに、女性に対する性的いやがらせなど、あらゆる暴力の根絶に向けた広報・啓発を強化する。		
担当局・部室	文化市民局・共同参画社会推進部	共管局・部室	
上位政策	2 人権・男女共同参画		
施策に関する主な分野別計画等	第4次京都市男女共同参画計画（きょうと男女共同参画推進プラン）		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	25年度	26年度	27年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト	
1 配偶者暴力相談支援センターにおけるDVに関する対応件数(京都府)(件)	a	a	5,298	5,965	2,826	211.1%	a	1.00	
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	27年度回答						有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも書えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない			
1 女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。	25 4.8%	109 21.0%	211 40.7%	108 20.8%	66 12.7%	519	c	
2 -								
3 -							-	
4 -							-	
5 -							-	
		市民生活実感調査総合評価						c

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					26 年度	B
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 対象が配偶者等からの暴力を受けた者という限定的な施策であり、市民の生活実態に施策の効果が直接反映されにくい性質であるため、客観指標総合評価を重視する。						25 年度	B
(原因分析) 【客観指標】 京都市DV相談支援センターにおける支援や、継続した子育て世代への広報啓発等の効果が一定見られ、3年連続a評価と高い評価で安定している。 【市民の実感】 市民の生活実態に施策の効果が直接反映されにくい性質であるため、市民生活実感調査ではどちらとも言えないとの回答が最も多く、昨年度に引き続きc評価となったと考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		27年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		26年度 決算額	27年度 予算額		
1	DV対策事業	74,274	75,951	普通	文化市民局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- 平成26年度に実施した「男女共同参画に関するアンケート」及び「配偶者等からの暴力に関する市民意識調査」の結果を踏まえ、平成27年度は「きょうと男女共同参画推進プラン（第4次京都市男女共同参画計画）」の中間見直しを実施する。
- 本計画に基づき、引き続き、配偶者等からの暴力の根絶に向けた取組を総合的かつ計画的に推進し、被害者の継続的な自立支援に重点を置いた取組を行うとともに、京都市域のDV相談専門機関一覧のリーフレット等の配架場所の拡大や地下鉄車内広告等、日常生活で目に触れる機会を増やし、DVの基礎知識や支援を必要としている被害者に対し、引き続き周知を図っていく。

施策名	0205	女性に対するあらゆる暴力の根絶				
指標名	配偶者暴力相談支援センターにおけるDVに関する対応件数（京都府）（件）					
担当課	男女共同参画推進課	連絡先	222-3091			
1 指標の説明						
京都市DV相談支援センター及び京都府家庭支援総合センターにおける京都市域のDV（配偶者・交際相手等からの暴力）に関する関係機関との調整件数を含む対応件数						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
重大な人権侵害であるDVの救済に向けた貢献度を示す指標			出典：事業担当課及び京都府家庭支援総合センター調査			
4 数値						
	前回数値 25年度	最新数値 26年度	推移 667件増	目標値		
数値	5,298	5,965		数値 2,826	根拠 32年度の目標値達成のため、当該年度達成すべき数値（*前年度数値比73件増）	達成度 211.1%
	全国順位	中長期目標			備考 *（目標年次件数(3,264件)－H21年度実績(2,468件)）÷11年(H22～32年度)	
数値		数値 3,264件	目標年次 32年度	達成度 182.8%		根拠 平成21年度実績(2,468件)を基準に、5年毎に15%増の目標値を設定。
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果		
最新数値の目標値に対する達成度が a：100%以上 b：70%以上100%未満 c：30%以上70%未満 d：10%以上30%未満 e：10%未満		・目標値を達成すればa評価 ・以下20～40%刻みでb～e評価		25	26	27
				a	a	a